

本番
共済大腸カメラ

第六十七回古民家歴史部会歴史探訪のご案内

平成24年4月15日

古民家歴史部会 木島・原本

前回は、「富士講の道歴史探訪シリーズ」その4回目、昨年度企画の継続最終回として、「川和富士塚・北山田富士塚を訪ねる」を歴史探訪しました。

今回からは、平成24年度企画「横浜、西区・中区・磯子区の今昔探訪」の1回目として、「開港横浜道・平沼水天宮・伝御所五郎丸墓・伊勢山皇大宮」を探訪します。ご期待ください。

記

日	時	平成24年5月10日(木) (今回も雨天決行します)。
集合場所	時間	横浜駅前「高島屋正門前銅像前」9:50分同時出発。
参加資格		本郷ふじやま公園傷害保険適用のため登録会員に限ります。
用意する物		前回に続き町中を歩きます。交通安全にご注意下さい。
行程		「横浜駅」→横浜道→平沼水天宮→御所五郎丸供養塔→掃部山・ブラフ 積擁壁→伊勢山皇大宮→成田山横浜別院延命院→野毛山入口擁壁→「桜 木町駅」。
		食事場所；桜木町駅解散・昼食自由行動。

以上

古民家歴史部会員 原本

4/12(木)下見 (メンバー) 原本 吉田 長谷川

「Ⅱ」5月10日(木)開港、横浜道・平沼水天宮・伝御所五郎丸墓・伊勢山皇大宮

4/12(木) SP 35

集合場所；横浜駅前「高島屋正門前銅像前」9時50分厳守同時出発

行程；「横浜駅」→横浜道→平沼水天宮→御所五郎丸供養塔→掃部山・ブラフ積擁壁→伊勢

山皇大宮→成田山横浜別院延命院→野毛山入口擁壁→「桜木町駅」。

食事場所；「」。TEL045——。

1・横浜道

横浜道開通前の東海道へは保土谷から井土ヶ谷、蒔田を通るか、神奈川から舟運しかなかった。1858(安政5)年日米修好通商条約調印によって開国に踏み切った幕府は、神奈川開港を翌年6月決めた。当時は、東海道筋から横浜への交通は非常に不便であったため、幕府は東海道筋の芝生(シホリ)村から横浜に至る「横浜道」と呼ばれる道路を開いた。此の道は、芝生村から湿地帯だった岡野・平沼の新田を経て戸部村まで直線道路を築き、新田間(アラタ)、平沼、石崎(現敷島橋)の三つの橋を架け、併せて戸部坂、野毛の切通しを開き、野毛橋(現都橋)、太田橋(現吉田橋)を架けたものだった。記録によれば道幅3間(約6m)・工期突貫工事三ヶ月(実際は1ヶ月)・欄干杉材・杭松材と言われている。この道を通して西

洋文物が全国各地に伝えられて行った。

2・横浜道の案内板(旧道浅間下交差点近く)。

平沼橋際 9:05~7

3・平沼水天宮(平沼神社・平沼稻荷社、荒神さま、平沼天満宮、例祭9月5日)

1839(天保10)年五代目平沼九兵衛が平沼新田の守護神として祭った事が始め。境内には、平沼稻荷社、竈三柱(カマドミハツ)神社、平沼天満宮。毎年、湯立神事を1月5日午前10時に斉衡すると言う。此の湯を飲むと風邪を引かないと言う。

江戸橋 9:16 雑 9:18~20

岩瀬 9:34

9:25~26

4・伝御所五郎丸墓（五輪塔、供養塔）



1193（建久4）年5月28日、源頼朝が富士で巻狩りをした夜、曾我兄弟が父の仇の工藤祐経（スツネ）を討ち取った。そのとき、五郎丸が曾我兄弟を祐経の館に導き本望を遂げたと言う。

公園一帯は桜の名所

9:37~42

5・掃部山（カモンマ）・井伊掃部頭の銅像（横浜開港実務者は岩瀬肥後守忠震が、と言われてい



掃部山は、江戸時代には「不動山」と呼ばれ、明治に入ってからしばらくは「鉄道山」と呼ばれていた。鉄道建設の時、此の地が事業拠点になった事に由来する。山手の外国人墓地に眠る E・モレルを始め、鉄道建設の為に来日した外国人官舎が此处にあり、鉄道開通後も、此处の湧水を鉄道用水として利用され、紅葉橋から花咲町一帯は鉄道用地となっていた。掃部山に変わったのは明治17年（1884）。旧彦根藩士有志が、元藩主の井伊直弼（ナスク）の記念碑建設の為に購入し、此の山を公園とした後、大正3年（1914）井伊家から市に寄付された。

井伊直弼（1815~60）は幕府の大老。1858年（安政5）大老に就任後、勅許の承認を待たずに日米修好通商条約を締結。横浜港の総責任者となった。此が後の江戸城桜門外での暗殺につながる（1860・3・3）。和歌、能、居合に通じ、とりわけ茶道では、「茶湯一会集」などの名著を残している。掃部山銅像、明治42年旧彦根藩士開港功績を顕彰して建設。しかし、昭和18年戦争の金属回収で撤去、昭和29年（1954）世田谷の豪徳寺所蔵の井伊大老像をモデルに建設された。（慶寺丹長=ケイジ・タンチョウ、父子鑄造）。



6・ブラフ積擁壁の残存ヶ所（西区；掃部山公園外周、野毛坂切通、野毛山入口擁壁・中区；山手町各地、神奈川区、青木町付近鉄道擁壁等。

外国人居留地としての山手地区には、1867（慶応3）年の開放以来、道路の開削や宅地の造成に伴って各地に大小の崖地が生じ、木柵による土留めから順次石積みの擁壁へと整備されていった。その多くは今なお現存している。房州石を用い、長さ70~80cm、20c

m角程度の石材を一本毎に控えをとる積み方で、レンガ積みで言えば一段に長手面と小口面とを交互にみせるフランス積に似た積み方をしており、従来の間知石積を主流とする伝統的な石積とは異なる。

居留外国人が、横浜山手を「ブラフ (b l u f f)」と呼んでいたので、「ブラフ積」と呼ぶようになったと言う。

⑦ 9=45~47

7・横浜能楽堂（井伊直弼が愛好した能にちなみ「かもんやま薪能」演じられてきた）

本舞台は、明治8年（1875）、現在の東京国立博物館に程近い東京・上野岸の旧加賀藩主・前田斉泰（ナリヤス・加賀藩13代藩主、大政奉還の少し前隠居）の隠居所の一角に建てられたものです。

⑧ 9=50~52

8・伊勢山皇大神宮（祭神天照皇大神・杵築宮、子の大神，水神宮・例祭5月15日・万葉歌碑犬

養孝書，昭和63年・以德報怨，蔣公頌徳碑，昭和61年）

もと戸部村東部伊勢山（現掃部山公園東北端辺）にあった大神宮を1870年（明治3）、神奈川県知事井関盛良（モリタ）の告諭により、野毛山に移して伊勢山皇大宮ととなえ、横浜総鎮守と定めた。それより所在地は伊勢山と呼ばれた。

⑨ 9=57~10=00

9・成田山横浜別院延命院（真言宗智山派・本尊不動明王・通称野毛不動尊）

本尊不動明王。1870年（明治3）成田山新勝寺領分霊を勧請して、太田村（現南区中町）普門院境内に遙拝所を設立。同年高島喜右衛門から敷地の寄進を受け現在地に移り、成田山教会と改めた。その後、1893年（明治26）本山塔頭より寺号を点じて延命院と号した。伏見・豊川・新栄の三稲荷・さらに、役小角像（エノオス）・不動尊・36体童子・崖下の行水堂・修行道場などがある。

以上

